

事業名

奈良を知る 地域を知る

目標

幼小中の連携を大切にし、地域や学校の良さを誇れる児童・生徒

1. 取組の視点

若草中学校校区は歴史が古く、豊かな文化財、自然に恵まれている。その良さを知らない園児、児童、生徒が多くいる。教職員や保護者、地域の方々についても同じようなことがいえる。また生徒数の減少ということも今後この地域の大きな課題となっている。校区の幼小中の連携、幼幼連携、小小連携を大切にしながら活動を進めている。「子どもがつながる」「指導者がつながる」「地域や保護者がつながる」ことを大切にしている。地域の良さを語り自分の学んだ学校を誇れる生徒を育てたいと考えている。

2. 取組の概要

○文化講演会の開催

多聞城450年祭 「松永久秀と多聞城」



元若草中学校の教師をしておられた北村雅昭先生を講師としてお招きした。約半年かけて計画を進めてきた。地域に1300部の回覧をお願いした。生徒、保護者、地域の方々710名が体育館に集まっていた。自信と誇りをもって学校の歴史を語ることでできる生徒を育てたいという思いや願いが参加していただいた保護者、地域の方々にも届いたのではないかな。私たちが毎日勉強している地域が戦国時代とつながっていて歴史上の人物が同じ場所に立っていたこと、またほんの少しの違いで若草中学校がここになかつ

たかもしれないことなど、興味深いお話が聞けた。城跡に立つ中学校など全国でも数少ない。



いつまでも語りついでいきたいものである。講演会の前には和太鼓バンド「閃」(ひらめき)のメンバーによる演奏が行われました。コミカルなパフォーマンスであつたり、力強い演奏であつたりと講演会に華を添えていただいた。

小学校でも「野菜育て 子ども育て 講演会」を開催していただいた。

○中学校校区フィールドワーク

生徒たちに地域の良さを語るためにまず教員、保護者、地域の方20名で校区を回って学ぶことをはじめた。



○校区お寺調べ

(地域調べ学習)

校区にあるお寺「西福寺」

を調べ、発表会のための資料作りをしている。

○幼小合同遠足 出会い 学び合い つながる

○校区小中連携 ウォームアップレッスン



3. 成果と課題

事業を計画するにあたっては幼小中が連携を密にして行うことができた。多くの保護者、地域の方を招いて多聞城を学ぶ講演会を実施することができた。来年度も生徒・保護者。地域の方が共に学ぶ事業を検討していく。

事業名

学びを育む

目 標

精一杯チャレンジし、生きる力を身につける**1. 取組の視点**

本校では自ら学ぶという姿勢がまだまだ身につけていない。生徒たちに「真の学力」を身につけさせるために教科学習に力を注ぐと共に体験的な学習を大切にしながら学力の向上を図っている。素晴らしい技術や豊かな経験を持っておられる方から学ぶことも大切にしている。実際の生活や自分の進路選択におおいに役立つような取り組みへとつながっている。さらに学力の定着・向上をめざし家庭学習の充実にも取り組んでいる。何の為に学習するのか、何に向かって学習を進めていくのかを常に問いながら、身につけた力を様々な発表会、生徒会活動でも十分に発揮出来ることを願って取り組みをすすめている。

2. 取組の概要

○「学びのはぐくみ」の作成・配布

学習時間調査の結果をもとに作成した「学びのはぐくみ」というガイドブック（下写真）を、全生徒に配布し、家庭学習の啓発に努めている。学び方について先輩のアドバイスがあったり、各教科の先生からこんな取り組みができますという具体的な方法が示されたりしている。



本年度は、1年生2年生に家庭学習ノートも持たせ指導をしている。工夫しているものがあれば教室や廊下に掲示し、何をどのように進めていけばいいのかと悩んでいる生徒たちへの具体的な見本となるようにした。

○「図書館学習」

毎週火曜日と長期休業前や休業中に学力補充の取り組みを続けている。1年生16名、2年生25名、3年生21名が英語、国語、数学の学習

に取り組んでいる。

○「私の主張」発表会



まず学級で自分の考えを発表する。次に学級代表となった人が学年の中で発表を行い学年代表1名が決まる。最後は9月の

文化発表会という保護者、全校生徒の前で発表をする。多くの人の前で自分の言いたいことをはっきり伝えことを大切にしている。また聞き手となる生徒たちには、仲間の思いに真剣に耳を傾けることやお互いの物の見方や感じ方を尊重する心と聞く力を育てたいと考えている。

○ゲストティーチャーから学ぶ

今年も年間を通して多くのゲストティーチャーの人に来ていただいた。2月の音楽の授業では尺八について



教えていただいた。和楽器を大切にしたいものである。またフリージャーナリストの西谷文和さんからはアフガンやイラクの子どもたちの様子を聞かされた。

3. 成果と課題

生徒の学びを育む取組を様々な視点から進めることができた。「生きる力」につながる学力向上を目指し多くの分野のゲストティーチャーからお話をいただくことができ、生徒たちの物の見方や感じ方を豊かにする機会に恵まれた。今後は地域におられる素晴らしい人材の発掘につとめてきたいと考えている。

事業名

鼓阪すてき出会い発見事業

目標

児童・PTA・地域住民が、様々な「人」「物」「事」と出会い、互いの結びつきを深め合えるようにする

1. 取組の視点

児童数が年々減少する中、学校と地域住民、さらには地域住民同士の結びつきが希薄となりがちな状況が昨今顕著になってきている。学校が様々な「人」「物」「事」との出会いを演出することで、学校が地域教育力の核となり、互いの結びつきを深め合えるようにする手だてを講じる必要があるといえる。

このような状況から、学校で行う行事に多くの地域の方々を招いて、学校の様子を知ることから理解を深めてもらい、同時に互いの結びつきを強めてもらうことを視点とする。

2. 取組の概要

近畿大学との提携で、世界遺産である奈良公園の中で発見された絶滅危惧種であるニッポンバラタナゴの里親となった。その保全のために長年、未整備であった通称ダラニ池を再興する取組を



行った。地域の方々を招いて「放流式」を計画し、再興された池の様子を見学することから、伝統ある本校を中心とした地域の強いつながりを確かめた。

また、今は閉鎖をされてしまったが、開設 50 周年を迎えた学校の近くにある大門市場で活動

していた地域の劇団を毎年お迎えして、子どもたちに舞台芸術のすばらしさを体験する機会を設けている。地域の方々や保護者も参加していただ



き、地域で活躍する劇団の活動の様子や子どもたちの喜ぶ姿を見て頂いている。

そして、毎年、秋に行う鼓阪人権文化センターが行うフェスティバルに本校の活動の様子を知ってもらうために活動の様子をパネルにし参加している。

その他、本校が教育の柱としているキャリア教育を校区全体で展開するため、講師を招いて研修会を開催している。

3. 成果と課題

学校の行事にできるだけ地域の方々を招き、そこで学校の様子を知ることから、学校のことを理解して下さることができた。また、地域の方々が学校で顔を合わせることによって、地域の結びつきも深まったと言える。

課題点として、今までの学校主体の活動から地域主体の活動へと移行するために、中心となる人材の育成や場所の確保等、整備していく必要がある。

事業名

鼓阪子どもふれあい事業

目標

地域の方々と子どもたちが活動を通してふれ合うことから地域を大切にしようとする気持ちを育てる

1. 取組の視点

今まで、地域の方々とは、低学年での生活科等を通してふれ合ってきたが、機会としてはそれほど多かったわけではない。今回、全校児童を対象にして、教育活動の中で地域の方々と活動する機会を多く持つことから、お互いを知り、親しくなることで子どもたちに地域を大切にしていこうとする気持ちを育てたいと考えた。

以上のような視点をもとに様々な活動を計画した。

2. 取組の概要

1 年生は、地域のお年寄りをお迎えし、昔よく



遊んだ遊びを紹介していただき、こどもたちといっしょに遊んでいた。子どもたちは、初めて体験する遊びなので、大変楽しく遊ぶことができた。

また、学校の近くにある奈良女子大学からアジア人留学生を招いて、母国の言葉を教えてもらったり、歌を歌ったりして、外国の文化にふれることができた。同時に、自分の国の文化も紹介することで、国際交流をすることができた。近くにある大学ということで、これからも本校との交流を大事にし、協力して地域を大切にしていこうとする態度を育てる。



そして、月に 1 回学校図書館の本の整備をして頂いている「鼓阪本の会」が主催するお話の会が毎年 1 回開催される。子どもたちは、熱心に耳を



傾け、お話の中に入り込んでいく。このような取組が子どもたちを健やかに育んでいく。

3. 成果と課題

子どもたちは、地域のお年寄りや外国人留学生等とのふれ合いの中で様々な経験をして育っていく。地域のぬくもりを感じ、大切にしていこうとする態度が醸成されることと考える。

今後は、地域の教育力が衰えないように学校との関係を保っていくための方策が必要となる。そのための、人とのつながりが切れないようにしていかなければならない。

事業名

佐保に生きる

目標

佐保のよさが分かり、佐保を愛する心情と態度を育てる。

1. 取組の視点

本校の「特色ある教育活動」を推進する中で、「佐保に生きる」をテーマに、体験的な学習の充実に努めてきた。

全校縦割りの異年齢集団活動（ともだち活動）では、高学年の子どもたちが、リーダーとしての自覚をもち、仲間意識が育った。

本校の伝統である「マーチング活動」では、地域の人とのふれ合いや交流を通して、子どもたちに自信と佐保に生きる誇りをもつことができた。

総合的な学習の時間では、学習テーマについて、地域に出かけ調べ学習を行うことを通して、地域の方とふれ合いつながりを深めることができた。

2. 取組の概要

本校の特色ある教育として、「ともだち活動」「マーチング活動」等、佐保小学校の伝統を継承する活動を実施している。その様子を紹介する。

ともだち活動

全校児童361名を縦割りにし、異年齢集団（1年～6



ともだち活動の様子

年を12グループに分ける）をつくり、互いに豊かな人間関係を築

くこと、実践する能力を培うことを目標としている。特に、高学年では、リーダー性と思いやりや協力性を育て、低中学年では、協力性、思いやり、優しさのある子どもに育てることをねらいとしている。

活動の内容は、6年生中心のリーダー会を行い、ともだち活動の計画、立案を行った。

リーダー会において、各グループの実施計画の

調整を行い、「ともだち活動」を実施した。

主な活動は、「1年生を迎える会」「運動会の練習」「新年子ども会」「6年生を送る会」等、に加えて遊びを中心に1年間を通していろいろな活動を行ってきた。

マーチング活動

児童約35名（4年～6年）が、伝統あるマーチング活動を実施している。昼休みや放課後の時間を利用して、一生懸命練習に励んでいる。本年度も地域の行事桜まつりに参加したり、幼・小・中・高合同のふれ合いコンサートで発表したりした。日頃の練習の成果を発揮し、地域の方々から賞賛の声とすばらしい評価をいただいた。



ふれ合いコンサート

また、ミニバスケットボール大会や少年野球の開会式にも参加し大活躍した。

3. 成果と課題

学校自己評価を行うと共に、保護者や学校評議員等による外部評価を実施した。子どもたちの生き生きとした姿に佐保のよさを知り、佐保を愛する心が育っているとの賞賛の声を聞くことができた。しかし、学校教育活動の内容が、果たしてどれだけ具体的に見えているのか不安もある。このことから、地域の人との交流の場を多く設定し、地域の人を巻き込んだ教育課程の工夫や多くの人に学校の取り組みを知ってもらうように努めることが必要であると思う。

事業名

佐保の自然や文化とのふれ合い

目 標

佐保の自然や文化遺産を学ぶ。**1. 取組の視点**

地域の人々は、佐保川清掃、佐保川桜まつりなどの協働活動を通して、佐保の伝統を守り続けている。子どもたちは、このような地域の自然や文化遺産とのふれ合いの機会と地域の人と交流する中で、体験を積み重ねてきた。このことから、自然環境や文化遺産を大切にする態度を育み、地域の人とのつながりをより深めることができると考える。

2. 取組の概要**ビオトープづくり**

4年生が、佐保の森にある観察池をよみがえらせるために、地域の方に手伝ってもらいながら、ビオトープづくりを行っている。

1. ビオトープづくりの目的

子どもたちが「自然」に触れ、慣れ、親しむ。そこから自然生態の「系」（システム）を肌で感じる。これを身近な「自然」から発見する。



地域の方とビオトープづくり

2. ビオトープづくりの進め方

1. 「ビオトープ」という空間を学ぶ。（4年生）
2. 「佐保小ビオトープ」のプランを考える＋施工プランを説明する。（4年生）
3. 施工
 - ①協力業者の選定、契約
 - ②現在の池底を掃除
 - ③資材の発注（貯水タンク、給水管、土（良質土）、遮水シート、石材、植栽）
 - ④基盤盛土（現況、周辺の土を使用）、貯水タンク据付、給水管敷設

⑤遮水シート敷設

⑥覆土、成形、石の据付、（植栽の植え付け、）給水（4年生と地域の方）

4. どんな生き物が棲めるようにするか決める。

ビオトープの目標）←佐保川の探検・調査・種の採取

5. 観察、管理の方法を決める。

6. 観察する→評価する→改善する（管理の方法を変える）

校区たんけん

2

地域の方に見守られ町たんけん

年生が、校区の自然や文化遺産等をたんけんする活動を行っている。10月、子どもたちは、自分たちで訪ねてみたい場所を決めて、狭岡神社や校区の公共施設等を地域の方に見守られながら、小グループに分かれて見学した。

5年生が、佐保川の歴史について学ぶ活動を行っています。地域行事の佐保川清掃に参加したり、佐保川を美しくする活動を行っておられる地域の方のお話を聞いたりして佐保川のことを深く学んだ。

3. 成果と課題

これらの活動を通して、子ども一人ひとりが、自分の住んでいる佐保のよさが分かり、地域の方に支えられて生きていることを肌で感じる事ができた。

また、地域の方とのつながりがより深まったと思う。今後もこれらの活動を継続推進していきたいと思う。

事業名

夢がかなうふれあい広場

目標

人・もの・こと及び地域とのふれあいを通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童が育つ学習環境づくり

1. 取組の視点

子どもたちの学校生活をより潤いのある、輝きのあるものにしていくため、本校がめざす児童像（学び伸びる子・優しく支え合う子・たくましく健やかな子）へとつなげていきたいと思っている。そのために、自ら課題を見つけ、主体的に学び、友達と協力して課題解決を図る児童の育成をしなければならない。そのことを行うには、様々な視点から児童に考えさせ楽しみを持って解決できるように、持続できる学習としていかねばならない。

2. 取組の概要

まず、各学年の発達段階にあった中心となる学習テーマを考え、進めることにした。1・2年生は、幼小連携を行い、小さな幼稚園児と交流する。その他にも菜の花の種取りも行う。

3年生は、地域遺産や地域学習。4年生は、環境学習。そして菜の花の栽培。5年生は、世界遺産学習。薬師寺・春日大社に菜種油を献上する。6年生は、平和学習。



また、どの学年にも食育指導を行っており、子どもたちは、真剣に話を聞いている。

これらの学習を通して、主体的に学習する児童へと成長していったほしいと願っている。またこれらの様子は、学校だよりや学年だよりで知らせ

ているが、授業参観や日曜参観等でも知らせるようにした。

また、このほかにも、保護者・地域の方々メンバーとして参加していただいているお話宅急便や北っ子図書倶楽部の皆さんにも今までどお



り積極的に学校に参画していただく。また、学校行事等を通して、保護者・地域の方々に積極的に関わっていただくなど連携を強化してきた。

3. 成果と課題

子どもたちは、興味・関心の深い部分は、本当に熱心にやってくれた。

1年間指導を行ってきたが、まだまだ不十分さもあり昨年度と同じような課題が残ってしまった点は、私たちも今以上に子どもたちに寄り添い指導を行っていくところです。

主体的に学ぶ児童の育成を目指してきたが、相手とのコミュニケーションがうまくとれず、理解が不十分であったり、またその人の気持ちになったりすることができずに、安易にその時の気分で相手を攻撃することがあったので他の人と良好な関係を築くためにも、コミュニケーション能力を高めたい。

少しずつであっても、児童数が減少している実情から、地域のよさがわかり地域を愛する児童の育成を目指していかなければならない。

事業名

みんなでわくわく、笑顔がいっぱい つざかっ子事業

目標

幼児・保護者・未就園児親子・地域住民が触れ合い、共に感動体験ができるように

1. 取組の視点

園児・保護者・未就園児親子・近隣幼稚園や保育園・小学校・地域の人々と一緒に楽しい体験をする中で幼児を育て、幼稚園の良さを理解してもらい、地域と共に楽しんでいける幼稚園を目指し、取り組んできた。

2. 取組の概要

☆地域の教育力を生かして

地域の方をゲストティーチャーに迎え、わらべうた教室・沖縄舞踊教室を開く。講師の方との触れあいを喜び、楽しい時間を過ごすことができた。

☆地域施設との交流を生かして

万葉苑へ訪問し、お年寄りとの交流を深めた。毎年園児達が訪問するのを楽しみにして下さっている。沖縄舞踊教室で教えていただいた踊りや運動会の踊り等を披露したり、一緒に楽器を鳴らしたりして触れあいを楽しんだ。



牛の見学に植村牧場へ行った。牛の大きさに驚いたり、模様がそれぞれ違うことに気づいたりしていた。園に帰り牛を絵に描き、表現活動にもつながることができた。



☆地域の人々との交流の場を生かして

保叻小連携を年間計画に位置づけ、交流の機会を持った。人形劇観劇会・木の実拾い・幼稚園の畑での芋掘り・交流学习・木の実を使っのリー

ス作り・焼き芋パーティー等と一緒に活動する中で、小学校へのあこがれや期待を持ったり、知らなかったことを知る喜びにつながったりした。



親子で楽しい経験ができ、園での子どもたちの生活の様子を理解してもらえるよう、お店屋さんごっこや遊園地ごっこの遊びに参加してもらったり、親子お茶会や地域の方も参加しての餅つき大会等を計画したりした。子どもの遊びに参加してもらったことで、遊びの中で子どもたちがどのようなことを感じ身に付けているか等を知ってもらうことができた。



未就園児親子との触れあいを大切にし、遊園地ごっこの遊びを一緒に楽しんだり、クリスマス会を開いたりして、共に楽しい時間を過ごした。



3. 成果と課題

地域と協力して園児を育てていけるよう地域の教育力も生かしながら活動に取り組んできた。園児はいろいろな人々との出会いの中で感動体験をし、表現する喜びや人に対する優しさ等を身に付けることができた。

少人数で園児だけではいろいろな経験ができてにくい面もあるので、たくさんの人々とかかわる中で園児だけではできない経験や大勢の人と楽しむ体験を積み重ねていきたい。

事業名

学ぼう つなごう 輝くさほっ子

目標

地域の教育力を活用し、豊かな社会性や人間性を身につける

1. 取組の視点

親子でふれあえる活動の場や地域の高齢者、乳幼児がつどえるコミュニティとして、園、家庭、地域が一体となって親子の安定したかかわりを育んできた。

地域の方の教育力により「さほっ子クラブ」(茶道・剣道・柔道・日本舞踊・華道)や昔遊びの活動を通して日本の伝統的文化に触れ親しんだ。

保護者と子どもが、遊びや活動を共にする機会をもち、親子が楽しみ会話をすることや保護者が子どもの成長を感じ子育てに励みをもてるようにした。

2. 取組の概要

○さほっ子クラブ

地域の方の豊かな教育力によって、温かいまなざしで包み込まれながら、地域の方とコミュニケーションを深め、日本の伝統文化を体全体で触れ感じ親しむことを願って取り組んだ。



開講式



茶道



日本舞踊



剣道



柔道



華道

○親子エアロビクス・親子栽培活動

親子で触れ合える場として、夏休みに夏期保育と位置づけ、卒園児の保護者の方の協力を得て、親子でエアロビクスを楽しみ、成果を運動会で、披露する機会をもち、家庭、地域みんながつながることを願って取り組んだ。

親子で野菜や花を植え収穫する機会を通して

同じ体験をしながら親子の会話がはずみ豊かな心を育んできた。



親子で土作り



親子で芋掘り

○お話の会

お話の会の語り手の方に来園いただき、語り手の方の声を通して、昔話や奈良の民話など聞かせいただき、優しい気持ちや人に対する信頼感など心のせていただいた。



お話の会



夏休み
お話の会

○オープンキンダーガーデン

12月に2日間、保育公開・園内作品展を開催し、地域に開かれた幼稚園として幼稚園教育の理解につながりました。また、地域ボランティアの方に昔遊びを教えていただき、温かい触れ合いを感じることができた。



地域の方
おはじき遊び



みんな
でつくった
大極殿

3. 成果と課題

地域の方の多大な教育力を得るためには、開かれた幼稚園として「幼稚園公開」をし、地域の方にも協力いただき「昔遊び」に取り組み、幼児も保護者も地域の方に温かく見守られていることを感じる事ができた。

核家族化や地域社会のつながりの希薄化、保護者の子育ての不安や悩みが増加、多様化している今日こそ、地域の方の教育力を得て連携しながら、親育ち子育てに取り組んでいくことが大切だと考える。

事業名

ふれあい であい 輝け 子どもの夢

目 標

地域や学校との連携を密にし、世代を超えたふれあい、出会いを体験し豊かな心と輝く夢を育む

1. 取組の視点

園や園児の実態を踏まえ、多様な感動体験ができる環境の工夫や園児・保護者・未就園児・近隣幼稚園・小学校・中学校・地域の人々と出会い一緒に楽しい体験をする中で、豊かな心と輝く夢を育むことを目指し、取り組んできた。

2. 取組の概要

○地域ボランティアによる教育活動の創造

☆東大寺本坊・奈良豆比古神社氏子の方とともに



本坊の方の案内で二月堂方面へ行き、途中の自然や二月堂からの景色に目を向け、千手観音像の話に新たな発見を楽しんだ。



また、校区内の奈良豆比古神社では、県の天然記念物「樟」



を、初めて見る子どもも多く、氏子の方から、フクロウが棲んでいることを聞いて「今日いるかなあ」と驚きの声を上げ見上げていた。エピソードやいわれ

に耳を傾け、文化財や身の回りのものに関心を高めることができた。

☆地域農業技術者の方とともに

親子野菜栽培を年間計画に位置付け、地域農業技術者の方の指導で野菜苗植え、草引き、水やり、収穫等の



体験を積み重ねた。収穫物は、持ち帰り家族と食したり、小学生を招いてカレーパーティーや焼き芋をして一緒に食べ、触れ合いを楽しんだ。



☆青山会(地域高齢者)の方々とともに

小さな頃の遊びの話を聞いたり、駒や折り紙等一緒に楽しんだ。園内作品展を案内し、自分や友達の作品を嬉しそうに説明していた。幼児の話しやふるまいをやさしく受け止め、温かいまなざしで褒めていただいたことは豊かな経験になった。

☆近隣幼稚園児・小・中学生とともに



鼓阪幼稚園・大柳生幼稚園等との触れ合いを重ねたり、小学生と幼稚園の畑での菜の花の栽培・収穫・脱穀を年間を通じ体験した。



また、中学生の職場体験では、サッカー・手品を見せてもらい、親しみとあこがれの気持ちを感じることができた。

☆英語講師を招いて

5回のエンジョイ・イングリッシュを実施し、歌・絵本・ハローウィン等外国の遊びや生活に親しみ、ミニコンサートでは、保護者と一緒に英語の歌を楽しむことが出来た。

3. 成果と課題

地域の教育力・人材・近隣幼稚園との連携を活用し、自分達のことを大切に思ってくれている人たちや違う価値観に接し、生活経験を広げ、感動体験の中で表現する喜びや人に対する優しさ等豊かな心を育むことにつながった。しかし、園児数の減少により、集団としての活動・体験が難しくなり、同時に園内環境整備・園外保育の付き添い等保護者の負担も増加する現状がある。地域の幼・小・中との結びつきをより深める機会を工夫することで、園児たちの将来を見据えた取組につなげていきたい。